

⑬一般県道川内大代線「加賀須野橋」架替事業

受賞機関 徳島県 県土整備部 東部県土整備局

<評価>

加賀須野橋は、船舶が通行するための「可動橋部」を持ち、上流に位置する企業群へ物資を輸送する船舶の航路を確保しているとともに、通勤・通学に利用される地域の生活道路である。建設後50年余りが経過して老朽化が著しく、また大型車が通行できないなどの課題があった。全国的にも珍しい可動橋の架替えにあたり、航路閉鎖期間を短くするなどの施工の効率化に努めた点が評価された。

はじめに

一般県道川内大代線の加賀須野橋は、地域の生活道路であるとともに、航路として利用される今切川を渡河していることから、航路部分に可動橋を有している点が最大の特徴であり、これまで陸上・海上交通の要として重要な役割を担ってきた。

しかしながら、架設後50年余りが経過し、老朽化が著しく、信号処理による片側交互通行制限、自歩道の未整備、狭小な航路幅等の課題を解消するため、「車道橋では日本一長い可動部を有する昇開式可動橋」として架け替えられた。

事業の概要・成果

この可動橋の施工にあたっては、船舶の航行を禁止（航路閉鎖）したうえで、可動橋の桁架設を行うこととなるが、航路閉鎖の期間については、航路利用関係者の社会経済活動に与える影響を最小限に抑える必要があった。

標準工法であるクローラクレーンによる相吊りでは7日間程度の架設日数が必要となり、航路閉鎖の時期が8月下旬に限られたことから、桁の送出しに「エンドレスローラ

装置」、吊上げに「ワイヤクランプジャッキ装置」を使用することで、3日間での桁架設が可能となり、航路閉鎖時期の制約を受けることなく、任意の架設時期を選択できることとなった。



加賀須野橋可動橋部（開橋時）

この航路閉鎖期間の短縮により、3月上旬での桁架設が可能となり、6ヵ月間程度の工期短縮に伴う大幅な施工の効率化に加え、事業効果の早期発現が図られた。

おわりに

徳島県には、吉野川をはじめ大小約500の河川があり、その河川にはさまざまな型式の数多くの橋梁が架けられている。

本県では、こうした橋を「橋の博物館」としてホームページなどで積極的に情報発信している。本橋梁が新たに仲間入りすることで、「徳島の橋」の魅力がさらに向上するものと期待される（<http://www.pref.tokushima.jp/bridge/>）。

賛助会員 川田建設(株)、(株)横河ブリッジ

⑭ながさき女神大橋の体験型観光

受賞機関 長崎県 土木部 道路建設課

<評価>

この取組みは、既存の土木構造物を景観のシンボルとしてだけでなく、体験型観光スポットとして活用したもので、普段立ち入ることができない女神大橋の内部を登り、地上175mから長崎の絶景を見渡せるようにした。既存インフラを観光資源とすることでインフラの役割についての啓蒙につながる点、参加料を変更した数回の取組みで結果を分析した点、他の体験型観光との組み合わせでさらなる発展が見込まれる点などが評価された。

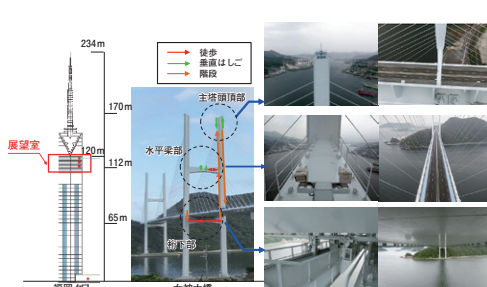
はじめに

ながさき女神大橋は長崎港により分断されている長崎南部と西部を結ぶことにより、地域全体の産業・経済・文化の活性化を図るため、平成3年に着工、平成17年12月11日に開通した。3径間連続鋼床版箱桁形式の斜張橋で、橋梁の長さは880m、中央径間480m、海面から桁下までの高さは65mで、明石海峡大橋等と並んで日本一である。昨年開通10周年を迎え、今では長崎の新しいシンボルとして親しまれ、また世界新三大夜景に選ばれている夜景にも彩りを添えている。こうしたなか、本県で女神大橋を観光シンボルだけではなく、さらなる観光振興に結びつけるため、観光ツアーに定評のある「長崎さるく」と協力して試験的に体験型観光「女神大橋ば登ってみゅーで!!」を実施した。

事業の概要・成果

普段立ち入ることができない女神大橋の内部に立ち入り、山登り感覚で橋を登り、海上175mの高さから長崎の絶景

を見渡したり、橋の内部構造の見学を行うものである。平成27年度は、5回（参加者約280名）のイベントを



通常コース（所要時間約2時間）

を行い、毎回好評で定員を超える申込みがある。また、参加者の声を活かしクルーズ船やカメラ好きを限定対象とした新たな企画を展開し、クルーズ船さるくでは県外からの参加者も見受けられた。



クルーズ船をお出迎え

おわりに

今後は、引き続き、体験型観光を試験実施するとともに、運営方法や費用対効果など長崎の観光振興につながるか検討を進めていく。

賛助会員 復建調査設計(株)